

# 口腔の役割

## ヒラメ顔からカレイ顔に？

高級魚として知られるヒラメの漢字は「鰈」で、ヒラメは「平たいこと」から魚へんに「平」をつくりにあてるのだそうです。一方、大衆魚として知られるカレイは「鰈」で、漢字は「鰈」の方が断然美しいですが、このつくりもまた「葉」や「蝶」などのように「薄く平たい」という意味があるそうです。

ヒラメもカレイも普通の魚と違い横向きに泳ぎ、目もヘンテコな位置についています。とてもよく似ていますが「左ヒラメの右カレイ」というように、一般にヒラメは左側に、カレイは右側に目が2つについていますが、中には左カレイという例外もあるそうで、ややこしくなっています。

そこで、見分け方としてあげられるのが、「歯」の違いです。食性によって歯が変化しているため、ヒラメはイワシやアジを食べるので大きく、カミソリのように鋭い歯をもっているのに対し、カレイはイワムシやゴカイを食べるので、小さな歯をしています。

歯の違いは顔の違いにも現れています。ヒラメは、口が大きく顎は頑丈で顔付きも凶暴。

カレイの口、顎は小さく顔付きもやさしい印象です。

食性と顔の違いは何もヒラメとカレイに限らず、他の動物や人にもあてはまることです。日本人の顎(あご)は縄文時代にはしっかりしていましたが、現在の日本人の顎はきゃしゃに、そして小さくなっていると言われていいます。「100年後には、逆三角形の顔の形になり、口が退化し、モテる顔であっても健康的な顔ではない(2010年 原島 博)」とも言われています。未来が少し心配です。

余談ですが、今はヒラメは白身の高級魚といわれていますが、実は江戸時代にはカレイの方がおいしく、高級魚とされていたそうです。では、なぜヒラメのほうが高級魚なのか。その秘密は顔の向きにあるそうです。

日本料理の基本ですが、料理を出すときに、頭を左に向けます。ヒラメはもともと左を向いていますが、カレイは右に向いてます。そこでカレイを出すときには“のし”を付けたり、裏返しにして目に赤いナンテンの実を添えて無礼を詫げるのだそうです。



ヒラメ

口が裂けて怖い顔で、「おおくち」などとも呼ばれる



カレイ

おちよぼ口の優しい顔で、「くちぼそ」などとも呼ばれる

### <引用・参考文献>

日歯広報2005年2月号、岡崎 好秀 ふしぎ・ふしぎ噛むことと健康パートⅡ デンタルエコー (2008・2009)

【歯科口腔外科診療部長 今井 正之】

